

## 暮れ方

長い階段を押されるように上り  
俯く目に、前を上がる女の足はよそよそしく  
むしろ走り去る電車の音に後ろ髪を引かれ  
足は重く、身体は後ろへと引かれて倒れようとし  
その度に背を叩き突かれて前にのめり、つまずく  
あの心地良げな筋肉に倒れ縊り  
この長い階段の中途に眠ることを願う  
鋭いものは何もなく、終わりもなく  
ただ、鈍く長たらしいもの等だけが果てしなく  
落ちかかる夕日のように、未だ、在る  
在る・・・ただそののみが感じられ  
ああ、全てはよそよそしい・・・

(1982.5.22)